

学長選考・監察会議議事録
(令和5年度 第2回)

令和5年6月26日(月)
14時50分から16時20分まで
法人本部3階「第一会議室」

【出席者】

学長 玉手 英利

経営協議会選出委員

谷口 功 伊藤 兵一 伊藤真知子 鈴木 雅史 鈴木 道子
西海 和久 長谷川真理子

教育研究評議会選出委員

是川 晴彦 中西 正樹 並河 英紀 上野 義之 黒田 充紀
村山 秀樹 土谷 順彦

【陪席者】 羽鳥副学長 渡辺監事

議事に先立ち、羽鳥副学長から、本日の会議が規程第5条第2項の会議開催要件を満たしている旨の報告があった。

I 前回議事録の確認について

谷口議長から、資料1に基づき、前回議事録の確認が行われ、議事録が確定された。

II 学長の業務執行状況の確認に係る意見交換について

谷口議長から、意見交換の進め方について説明があった後、玉手学長から、就任後取り組んできた課題、現時点で困っていること、今後展開しようとしていること、これまでの成果等について説明があり、次いで、学長選考・監察会議委員との意見交換を行った。

質疑応答は、以下のとおり。

- ・**デジタル人材の育成**というところで、学部それから大学院に、新しい学科、専攻を設けていくというのは大変素晴らしい方向性だと思っている。そこで、**入学者の多様性・ダイバーシティを確保**されていくということが非常に重要だと思う。(伊藤真委員)
- ・女性人材確保については、理工系の入試の改革も、当然伴うべきだと思っている。そこは着実に実行していきたい。(玉手学長)
- ・歴史的にもその設立の事情が違い、地理的にも非常に離れているというところに、いわば**こ足キャンパスの中で、コネクションのあり方は、どのくらい進められておられるのか**ということを少しお聞きしたい。(長谷川委員)
- ・コストを考えると、どうしてもやっぱり**オンラインでキャンパス間をまたぐ教育・研究**をやっていく方がいいと思う。学生自身の負担も考えると、教育の場はどうしてもキャンパスに張り

付けざるを得ない。一方で、地域課題があり、キャンパス毎の特性とその地域性での課題が違
うところもあるわけですから、**学環に関しては課題解決型の学習をするときに、キャンパスを
フィールドワークの拠点にする**というような形で、ずっといるわけじゃないがある程度の期間
をまとめてステイしてフィールドワークをするといったところで、交流ができればと思っている。
コストの問題が一番重要。その中で**コストエフェクティブな教育**という形で考えている。

(玉手学長)

- **学生の「挑戦する心を育てる」**っていうこのキーワードが、全てに共通して一番重要なポイントではないか。学長が今ここをキーワードにして、教育のところを改革していくことに、エールを送りたい。実現のためには、ここにいる皆さん方のリーダーシップチームが一枚岩になって、この大学を変えていくことが必要。大いに期待したい。(西海委員)
- 課外活動における挑戦と授業の中での**先生方からのマインドセットが重要**。学生が、自分が今何ができるかを考え、チャンスがあればそれに応募して行ってほしい。(玉手学長)
- 玉手学長の熱意が、現場の先生方になかなか届きにくい部分がある。機構をどのようにこれから活用されるのかなっていうのをお聞きしたい。(並河委員)
- 機構の中で、もう少しロングタイムの視点を持った議論が必要だと思う。これからどうしていくかという**議論ができるようになった点が、機構化の良かった点**だと思う。(玉手学長)
- 非常に前向きなお話、素晴らしいなと思ったが、一方において、**少子化で入口の管理が非常に難しくなっている中で、一部すごくチャレンジングなことをしていく学生たちはいるが、それ以外の学生たちの教育では、かなり先生たちの負担が大きいのではないか**。教育力をつけるにあたり、昔に比べると学生たちに手がかかって、最低限のことだけでもやっていくだけで手いっぱいという中で、玉手学長の理想と現場の乖離が非常に心配である。(鈴木道委員)
- 少子高齢化になり、今までなかったような学生さんも入ってくるようになり、親も違う。姿勢も違ってくる。今大変なのは、**学生のケア、保護者対応**。そして**留学生もかなり個性的な人もいて、留学生のメンタルのケアもあり**、仕事としてここ1、2年増えたと思う。(是川委員)
- 私は、ボトムラインの学生を教えていて、でも彼らが活躍しているのを見ている。センター試験は低くても、伸びる教育はできる。そういう教育をやるために、**教員の意識改革が必要**。**教育改革を真剣に考えてほしい**と思っている。(玉手学長)
- 若い世代の社員を見ていると、非常に素直だが、自分で何かをやる意気込みは前に比べると少なくなっている実感がある。よく見極めてうまい状態で焚きつければ、**伸びる人はいると思う**が、その見極めをする先生方の手間隙は大変かと思う。どのようにすれば効率的にやっていけるのか工夫していかないと、空回りする部分が出てしまうように聞いていて感じたところ。(鈴木雅委員)
- 高専は学校の中だけで育てることは無理。外へ出します。先生も学生さんも外へ出して、インターンシップの中でやり、一方では、基礎学力、勉強に関しては、上の学年の学生にやらせよう。先生方も忙しくてできないですから、学生さんに助けてもらおう。そんな形をとることによってかなり改善することが現実にあります。(谷口議長)
- 一番興味を持ったのは、最初の社会共創デジタル学環。地域の中堅企業を利活用したインキュベーション機能とかですね、その地域の企業のニーズとですね、マッチしたら大変面白い。**社会共創デジタル学環の学生が、新たな地域の中堅企業のシーズになる**。そういったある種の循

環が、そういった成功体験が、新しい学環の存続成長に大きく活きるということ。（伊藤兵委員）

- ・企業はまだやれる余地があるんだけど、情報なり、ストーリーを作るときのバックグラウンドのアイデアみたいなものは大学が持っているので、本来はデジタル学環の課題解決の学びでやって、実際それに対して受け手となるリッチな企業があれば、そこに入り込んでやって、それがプラクティスとして在学中にできればいいと思う。**指導する側の意識や発想が重要**である。（玉手学長）
- ・受験生を確保することがこれから大事になってくると思うが、今日のスライドで、18歳入学者だけに限らず、多様な入学者とあったが、**留学生あるいは社会人を入れる具体的なアイデア**とかあればご紹介していただきたい。（村山委員）
- ・**基本的な入口管理からの転換、共通テストを課すことをやめたらいいんじゃないか**と実は思っている。個別学力検査の負担も結構大きい。もうちょっと柔軟に入ってもらえるやり方すべきだと思っている。一方で、入試はいずれにしてもコストがかかるもの。国立大学は共通テストを受けなければ入れないと思っている学生が結構多いので、そこから変えていく必要があると思う。あとは、入学時期。4月入学9月入学もできるようになっているが、実質はなかなかやりづらいところがある。数としてはそんなに多くなくてもいいが、例えば**社会人とか留学生に関して、秋入学があつていい**と思う。秋入学のときは入試もできるだけ簡素にして、ちょっと厳しいが、入ってから落とすという形でやるしかないかなど。他にもいろいろ細かいやり方は考えられるが、まず入口管理を止めないとダメだと思っている。（玉手学長）
- ・農学部も国際交流に力を入れている。留学生にターゲットを絞るのであれば、ぜひ**日本語教育**もやっていただきたい。（村山委員）
- ・学長から、**共通テストによらない入試に力を入れる**という言葉、今回初めて聞いた。ぜひそこには全面的に乗っていききたいと思う。これは**最大の大学の改革であり、メッセージ**であると思う。多様な入試、年内に決めていくような入試をしないと、学力を担保することもほぼ不可能になってきた。（黒田委員）
- ・経営協議会で山形大学の令和4年度の収支状況を御覧いただいた。全体としてはちょっと黒字になったが、ご存知のように文科省から光熱水費相当分をもらった結果。**今後、人件費削減をやるのかどうかというすごく大きな判断**、もう少し深刻なところに必ず行く。もうちょっと頑張れるかどうか、そこを1回、**学内では話をしたい**などは思っている。ただ当然ながら頑張っても、減るものはずっと減っている。今年度中の前半ぐらい、**人件費ポイントの一定削減について結論を出したい**とは思っている。学内で議論をしたい。人を減らすことは質の低下に繋がるので、できれば避けたい。結論は言えない。（玉手学長）
- ・第4期に入って、3期と違って各学部ごとの計画を立てることがなくなった。それが玉手学長の思いがなかなか部局に伝わりにくくなっている原因の一つかなど思っている。先ほどの入試の話も、こういう大きなことは、大学として第4期の中でどこまでするか。学長と担当理事の間にしっかり話を詰めていただいて、それを、機構を通じて整理していただくと、各部局にしっかりと伝わりやすくなるのかと思う。**機構を今後どう活用するかはすごく大きなポイント**かと思う。（並河委員）
- ・入試改革については、昨年度、担当理事それから部局長の方とのミーティングに私も出て、共

通テストの使い方についても問題提起をしたと思う。私から繰り返し言わないといけないと思った。（玉手学長）

- 例えば具体的なメッセージとして、入試のときの電算チェックの手計算はやめましょうと提案した。そこから先動いてない。私の方から繰り返し言うしかないと思っている。例えば入試作題に名誉教授を使いましょうとかもこちらから提案はしているが、3年前に提案してまだ動いてない。どこで止まるのか。そこは私が逆に聞きたいところ。（玉手学長）
- 学長が発案されて、担当理事あるいは役員会でそういう方針が出て、学部に降りてきたことは、少なくとも米沢キャンパスで、それに反対意見があったり、それが止まるってことは今までないし、それは絶対に止めることはない。**方針がきちっと決まって降りてきたものに関しては、我々従って仕事をするのが仕事、これは必ずやる。ぜひきちっとやっていただきたい。**（黒田委員）
- わかりました。ありがとうございます。（玉手学長）

意見交換終了後、谷口議長から、いただいた意見については、後日、報告させていただく旨説明があった。

IV その他

谷口議長から、次回開催は、11月20日の経営協議会の終了後に予定する旨発言があった。